

**北海道教育大学附属函館中学校 副校長 黒田 諭**

「四ヶ月間を振り返って」

先日、本校の年間行事予定を確認しながら、令和四年度も三分の一が終わろうとしていることに時の流れの早さを感じました。

四月の第三学年の修学旅行、五月の体育祭、六月の中体連などの各種行事について、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じながら、ほぼ予定どおりに開催することができました。七月に入ってから、梧桐祭に向けた取組も一部始まっております。

また、昨年度まで活動を自粛してきた本校のPTA活動も少しずつ動き出しており、五月のPTA総会を皮切りに、広報部による写真撮影や研修部による北海道地区PTA連合会総会・実践活動協議会へのリモートでの参加、学級部による学年ごとの茶話会の実施や附中Tシャツの販売、社会学級部の今年度活動の検討に加え、生活環境部による花壇の整備などが行われています。このような取組が再開されたことは、とても喜ばしいことであり、引き続き無理のない範囲で行っていきたいものと考えております。

ただし、新型コロナウイルス感染症については、まだまだ油断ができない状況です。本校でも感染の広がりを最小限に抑えるため、これまでに三つの学級で閉鎖を行ったり、複数の部活動で活動の自粛を行ったりしてきました。今後、子供たちのかけがえのない学びを止めないためにも、皆様には感染症対策を適切に継続していただければと思います。

ここ数年で、私たちの生活も大きく様変わりしてきました。数年前には全国一斉臨時休業などもありました。そのような中で私が感じたことの一つが、学びの場を保障することの大切さです。時には個別に、時には協働的に学ぶ環境を整えるとともに、それぞれの状況に応じた教育を提供することは、私たち大人の責務であり喜びです。中学生は多感な時期でもあり、立ち止まったり迂回路を通ったりすることもあります。私たち大人だって昔はそうでした。そういった意味でも、これからも子供たちを温かく見守りながら、教育活動を進めていきたいと思っております。伝統ある北海道教育大学附属函館中学校の新たな歴史をこれからも共に築き上げていきましょう。